

# 全国学力・学習状況 調査結果と向上への指針

平成21年度  
調査概要

調査日：平成21年4月21日（火）

調査内容：① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙

## 平成21年度の教科に関する調査結果は・・・

和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との比較

### 小学校

（単位は%）

教科	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)
県	69.8	48.4	79.4	53.0
全国	69.9	50.5	78.7	54.8
差	-0.1	-2.1	+0.7	-1.8

### 中学校

（単位は%）

教科	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)
県	74.9	70.7	63.1	56.0
全国	77.0	74.5	62.7	56.9
差	-2.1	-3.8	+0.4	-0.9

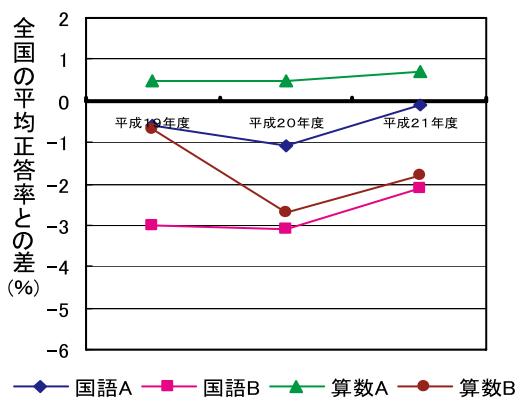
ほとんどの教科で昨年度よりも平均正答率が高くなっています。

全国の平均正答率と比べて大きな差はありません。小学校の国語B、中学校の国語A・Bにおいて、全国との差がやや大きい傾向にあります。

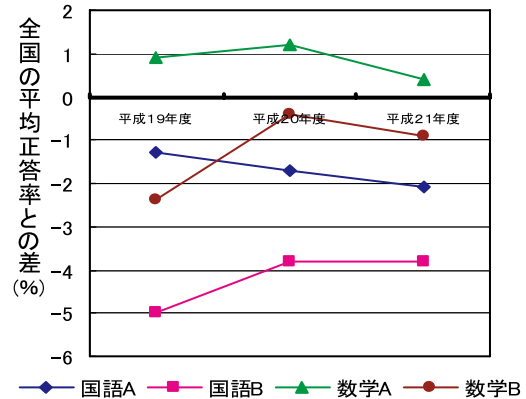
## 3年間（平成19～21年度）の結果をみると・・・

和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との差の推移

### 小学校



### 中学校



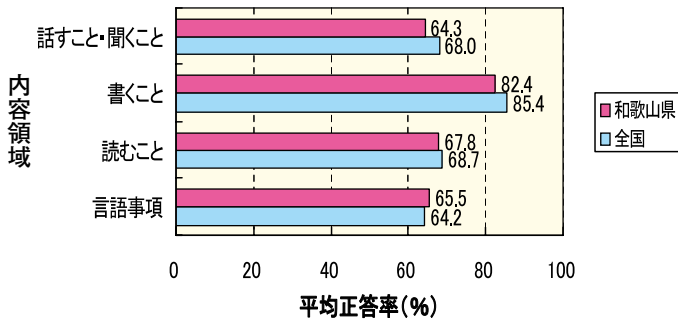
## 次の傾向がみられます!

- 小学校、中学校ともに、算数A・数学Aの平均正答率が、全国の平均正答率を上回っています。
- 小学校、中学校ともに、国語Bの平均正答率が、全国の平均正答率を最も下回っています。
- 小学校では、国語Bと算数Bの平均正答率が、全国の平均正答率と比べて低い傾向にあります。
- 中学校では、国語Aと国語Bの平均正答率が、全国の平均正答率と比べて低い傾向にあります。

# 国語

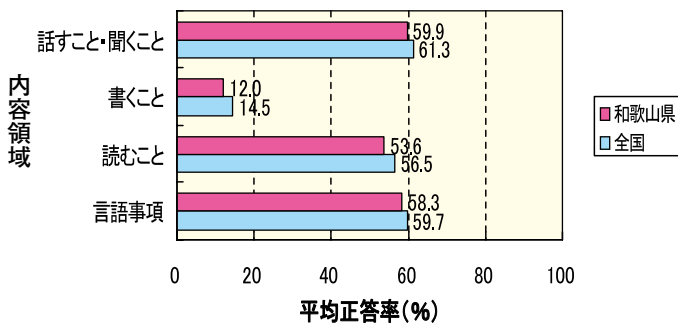
## 小学校

### H21 国語A(知識に関する問題)



- ◆ 「書くこと」では、文章の内容に合わせて小見出しをとらえることは概ね良好といえるが、全国の平均正答率との差がやや広がり、課題が見られる。
- ◆ 「読むこと」では、全国の平均正答率をやや下回るものの改善が見られる。しかし、文学的な文章の表現の工夫をとらえることに課題が見られる。
- ◇ 「言語事項」では、漢字を正しく読んだり書いたりすることは概ね良好といえる。
- ◇ ローマ字を正しく読んだり書いたりすることは、全国の平均正答率を上回っている。
- ◆ 接続語を使って一文を二文に分けて書くこと、毛筆の下書きについて書き直す内容を説明することには正答率、無解答率両面から課題が見られる。

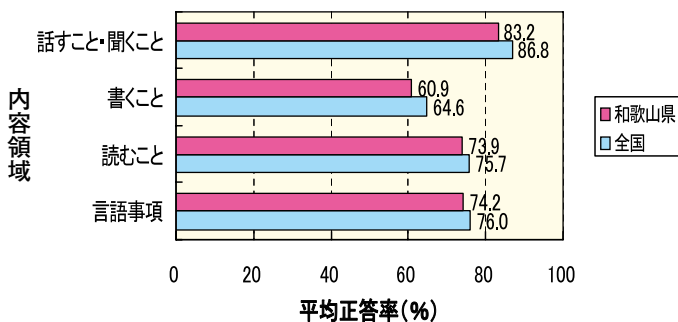
### H21 国語B(活用に関する問題)



- ◆ 「話すこと・聞くこと」では、改善の状況が見られるものの、自分の立場や意図を明確にして話し合うこと、話の組立てを工夫しながら、図を使って説明することに課題が見られる。
- ◆ 「書くこと」では、報告文を読み、メモの中に調べた内容の一つめを書くことに課題が見られ、無解答率も高く、今後の改善が必要である。
- ◆ 「読むこと」では、筆者の表現の工夫や考えをとらえることに課題が見られる。
- ◆ 記述式問題を含め、無解答率については改善が見られるが、県の各問の無解答率を平均すると13.1%と高く、今後も改善が必要である。

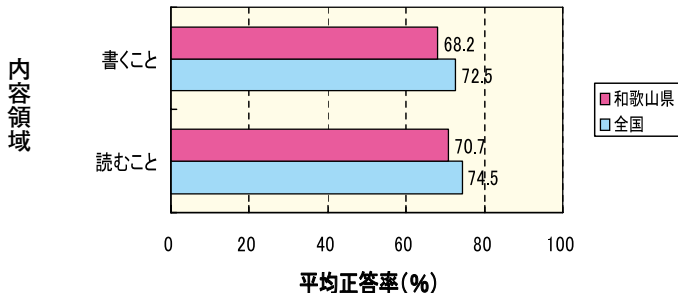
## 中学校

### H21 国語A(知識に関する問題)



- ◆ 「話すこと・聞くこと」では、効果的なスピーチをするために話し方や話の展開の仕方を工夫することに課題が見られる。
- ◆ 「書くこと」では、主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くこと、自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力のある文章を書くことに課題が見られる。
- ◆ 「読むこと」では、短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと、必要な情報を集めるための読み方を身に付けることに課題が見られる。
- ◆ 「言語事項」では、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題が見られる。

### H21 国語B(活用に関する問題)

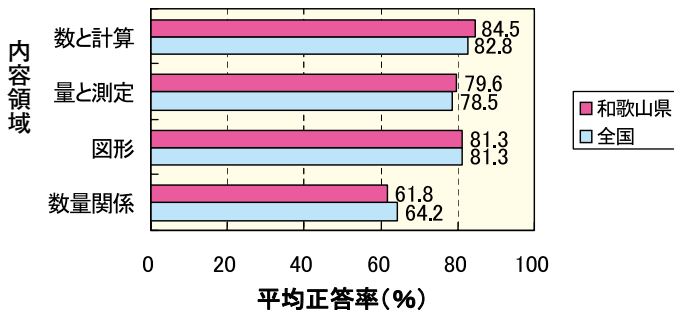


- ◆ 領域等別正答率、評価の観点別正答率のすべてにおいて全国の平均正答率を3~5ポイント下回っており、知識・技能を活用する力に課題が見られる。
- ◆ 「書くこと」では、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること、文章から読み取った情報を簡潔にまとめて書くことに課題が見られる。
- ◆ 「読むこと」では、説明的な文章と補助資料とのかかわりを理解すること、詩の表現の仕方に注意して内容をとらえることに課題が見られる。

# 算数・数学

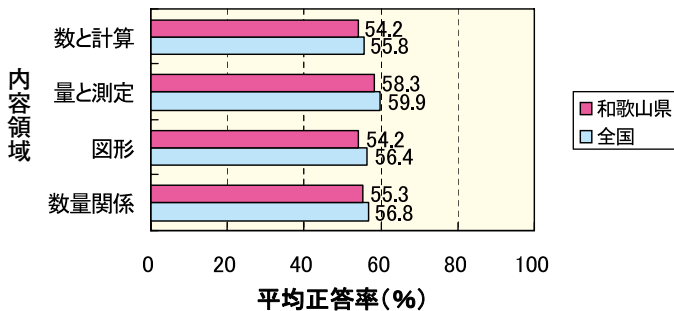
## 小学校

### H21 算数A(知識に関する問題)



- ◇ 「数と計算」では、整数、小数、分数の四則計算は、相当数の児童ができていますが、数直線から数を読み取ることに課題が見られる。
- ◆ 「数量関係」では、計算の順序についてのきまりを理解して計算すること、百分率を求めること及び資料を二つの観点から分類整理し表を用いて表すことに課題が見られる。
- ◇ 全国との比較で見ると、「短答式」に比べ「選択式」での正答率において良い状況が見られる。
- ◆ 四角形を1本の対角線で2つの三角形に分けたときの、四角形の4つの角の大きさの和の求め方の理解に課題があり、無解答率も高く、今後の改善が必要である。

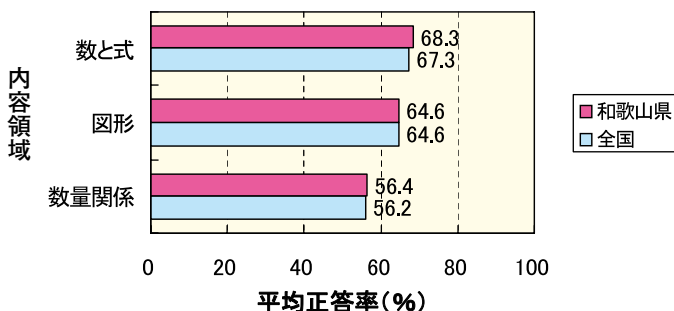
### H21 算数B(活用に関する問題)



- ◆ 「数と計算」では、情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することに課題があり、無解答率も高く、今後の改善が必要である。
- ◆ 「量と測定」では、与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することに課題が見られる。
- ◆ 「図形」では、円の半径の求め方として示された解決方法を理解し、見方を変えた別の方法を考え、それを記述することに課題が見られる。
- ◆ 「数量関係」では、基準量や比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することに課題が見られる。

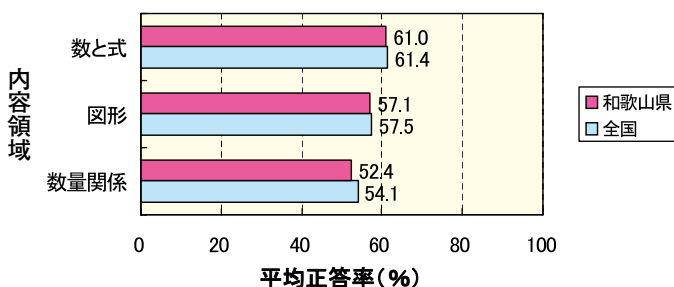
## 中学校

### H21 数学A(知識に関する問題)



- ◇ 「数と式」では、比の意味の理解、四則混合の計算、単項式の乗法の計算について、相当数の生徒ができています。
- ◆ 一元一次方程式をつくって問題を解決するために、2通りに表せる数量に着目することについては課題が見られ、無解答率も高く、今後の改善が必要である。
- ◆ 「図形」では、作図と線分の垂直二等分線についての理解、同位角の理解、証明の意義についての理解に課題が見られる。
- ◆ 「数量関係」では、具体的な事象における反比例の関係についての理解や反比例の表から関係を式で表すことに課題がある。また、二元一次方程式の解を座標とする点の集合についての理解にも課題が見られる。

### H21 数学B(活用に関する問題)



- ◆ 「数と式」では、予想された事柄が一般的に成り立つ理由を説明することについて、全国の平均正答率を上回るものの、無解答率は高い。
- ◆ 「図形」では、方針に基づいて証明することについて、全国の平均正答率を上回るものの、無解答率は高い。
- ◆ 「数量関係」では、表やグラフから必要な情報をよみとり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られ、無解答率も高く、今後の改善が必要である。
- ◇ 不確定な事象についての予想を実験で確かめるための方法を考えることについては、全国の平均正答率を5ポイント上回っている。

# 言語活動を位置づけた授業の構想を!

国語だけで?

## 話すこと・聞くこと

- ・自分の考えを明確にして論理的に伝える。
- ・話し手の意図を考え、自分の考えと比べながら聞く。
- ・目的や意図に応じて、的確に話したり、筋道立てて話し合ったりする。

他教科等でも充実

# 身に付けさせたい国語力

## 書くこと

- ・根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書く。
- ・目的や意図に応じて、構成を工夫して分かりやすく書く。
- ・想像力を豊かに働かせて書く。

## 読むこと

- ・本や文章を読んで、自分の考えをもつ。
- ・目的に応じて、様々な文章を読み、内容を理解する。
- ・効果的な表現の仕方を学ぶという目的意識をもって読む。

## 授業改善のポイント

教科の指導において自分の考えを発表する機会を保障する

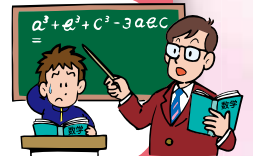
### ◆各教科等で大事にしたい指導の工夫例◆

国語

- ・段落や話のまとまりごとに内容を理解できるように読ませる。
- ・理由や根拠をあげて自分の考えをノートに書かせる。
- ・発表の場面では、自分の考えがうまく伝わるように話の組み立てを工夫させる。
- ・学習したことを日常生活で使わせる。

算数・数学

- ・解決意欲を高めるような問題場面の設定や課題の提示の仕方を工夫する。
- ・答えを導く過程を式だけでなく、言葉や図、表などを用いて表現し説明させる。
- ・学習したことを日常生活の様々な場面で活用する課題の設定を工夫する。



社会

- ・社会的事象に関する情報や意見を、グラフや図、表などから読み取らせる。
- ・読み取った情報を既習の事柄や経験と関連づける場面を設ける。
- ・理解したことや考えたことを、学習用語を適切に使って表現させ、話し合い活動に活用する。

理科

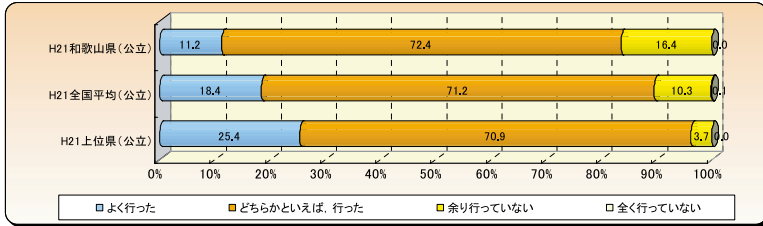
- ・見通しをもって実験・観察をするなどの問題解決的な学習をさせる。
- ・実験に対する予想やその理由を出し合い、意見を交流させる。
- ・理解したことや考えたことを、学習用語や図、グラフなどを使って適切に書かせる。



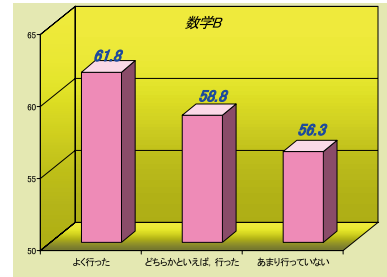


## 子どもの思考を大切にした指導を！

生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか（中学校質問紙 28）



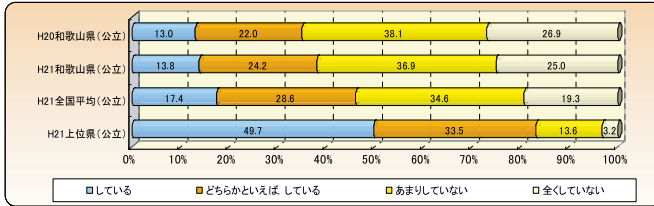
回答別平均正答率



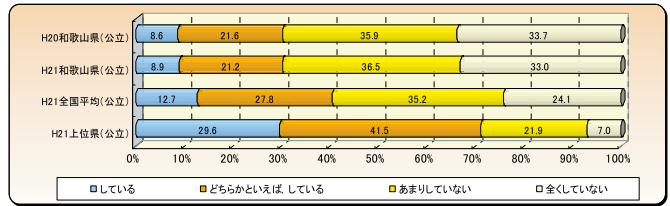
全国平均と比べると、「よく行った」と回答している学校が少ない傾向にあります。  
「よく行った」と回答している学校ほど、教科の平均正答率が高くなっています。  
子ども一人一人が考えをもち、主体的に参加できる授業づくりが大切です。

## 家庭学習の定着を！

家で学校の授業の復習をしている（小学校児童質問紙 29）



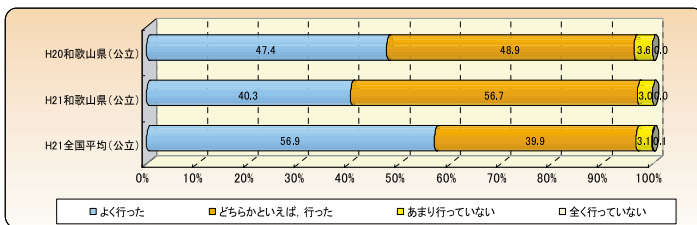
家で学校の授業の復習をしている（中学校生徒質問紙 29）



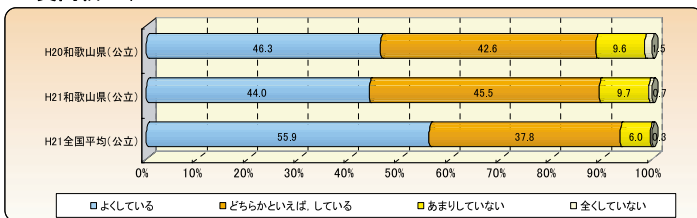
昨年度と比べると、「している」と回答している子どもが少し増えています。  
しかし、全国平均と比べると、「している」と回答している子どもが少ない傾向にあります。  
与えられた宿題をきちんと行うとともに、授業の復習等自分で計画的に学習に取り組む習慣を身に付けさせることが大切です。

## 学校をあげて学力向上の取組を！

学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底していますか（中学校質問紙 31）



模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか（小学校質問紙 90）



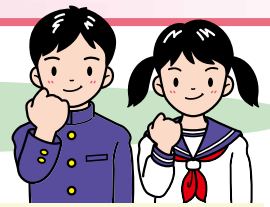
学習規律の維持徹底について、全国平均と比べると、「よく行った」と回答している学校が少ない傾向にあります。

学習規律は授業を支える基盤です。

実践的な校内研修について、全国平均と比べると、「よくしている」と回答している学校が少ない傾向にあります。

授業力の向上を組織的に図ることが大切です。

# 全国学力・学習状況調査の結果の分析を活かして 取り組んでいる実践例



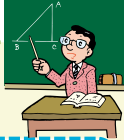
全国学力・学習状況調査等の  
分析で見えてきたこと



国語の記述式問題の無解答率  
が高いなあ。

算数も、言葉で説明する問題  
ができていないなあ。

国語も数学も、A問題(知識)  
に比べて、B問題(活用)が  
できていないなあ。



今求められている力を児童に  
つけるためには、どんな授業  
にしたらいいのだろう。

どの教科でも、書く力をつける  
ためには、どうすればいいの  
だろう。



朝食を毎日食べている生徒が、  
全国と比べて少ないなあ。

朝食を食べている生徒ほど、  
正答数が多いなあ。

休みの日に全く勉強してい  
ない生徒が、全国と比べて多  
いなあ。

毎日必ず勉強している生徒ほ  
ど、正答数が多いなあ。

家庭学習を定着させ  
るためには、どうした  
らいいだろうか。



分析を活かして  
取り組んだ実践例

こんな成果がありました

## 実践例①

### 全員参加の研究授業

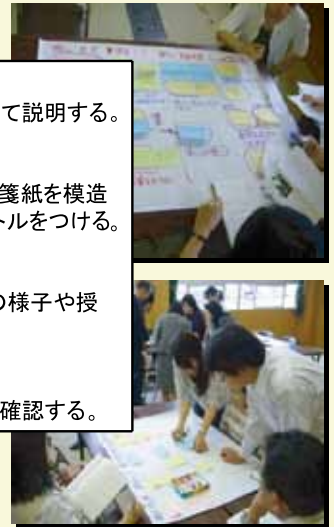
- 職員全員で課題を確認
- 研究主題を共有(研究の目的や内容について共通理解を図る)
- 学年・教科の枠を越えて、教材研究・指導案の検討(研究主題に即した手立てや工夫=授業を見る視点)
- 職員全員が同じ視点をもって研究授業に参加(気付いたことを付箋紙にたくさん書き出す)
- KJ法やグループ協議を取り入れるなど、全員が参加できるように工夫
- 成果と課題を確認し、次からの授業・研修に活かす

全員参加の協議にするために

- ①<授業者より>  
授業のポイントなどを指導案を使って説明する。
- ②<グループ協議>  
グループごとに、話し合いながら付箋紙を模造紙の上に分類し、まとまりごとにタイトルをつける。
- ③<ポスターセッション>  
できあがった模造紙を使い、協議の様子や授業について気付いた点を説明する。
- ④<全体協議>  
みんなで話し合っ、成果と課題を確認する。

授業を見る視点を決めておくと、事後研でも深められて良かった。

KJ法を使った協議は、全員参加の方法としてとても有効でした。



## 実践例②

### 匠の授業に学ぶ

- 優れた指導技術をもった教員の授業ビデオを、現職教育に取り入れて研修する。
- 先進的な取り組みをしている教員を自校に招き、示範授業をしてもらって学ぶ。

「目から鱗が落ちる思い」でした。良い授業のイメージができました。

生徒のつぶやきの活かし方、机間指導の仕方、ノートの書かせ方など自分の授業にも、すぐ活かします。

## 実践例③

### 保護者向けのパンフレットを作成

- 職員全員で課題を確認
- 課題を解決するために学校で取り組んでいること、これから取り組むこと、家庭にお願いすることを整理
- パンフレットを作成
- 保護者会や家庭訪問等で活用



保護者に、何を協力して欲しいかが具体的に示せて良かった。

学校がどういう取り組みをしているかが分かったと、保護者から好評でした。

全校で一致して取り組むことが大事だと確認できて良かった。